

ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実 成果報告（概要）【山口県教育委員会】



目的・目標

- ICT関連業種や事務的な業種、在宅で勤務できる業種等を中心に、特別支援学校在籍生徒の就職先の拡大を見据え、関係者間の連携体制を構築するとともに、多様な職種、業務内容に対応できる職業教育、進路支援の一層の充実に資する。

取組内容

- ★ 特別支援学校在籍生徒の障害の状態や、就職希望先が多様化してきており、学校によってはより専門的な知識・技能を有する職種への就職を見据えた教育活動のニーズが高まっているが、現時点でニーズに対応した教育プログラムや教材等は準備できていない状況である。
- ★ 近年、全国的に在宅勤務（テレワーク）が増加しているが、現時点で本県の特別支援学校高等部卒業生で在宅勤務を行っている者はほぼいない状況であり、在宅勤務を視野に入れた職業教育や進路支援の推進、学校への理解啓発も課題である。

研究協力校

県内特別支援学校 2校
(対象生徒: 肢体不自由・病弱)

- 研究担当者及び外部専門委員で構成する「特別支援学校ICT人材育成検討協議会」を開催し、特別支援学校における職業教育に、ICT活用に係る知識・技能等の習得を目的とした内容を効果的に取り入れるための方策や取組の全体的な方向性等について協議・情報交換を行った。
- 生徒の実情に応じて段階的に知識・技能を習得できるようにするための教育プログラムを、企業や関係団体と協力して開発を行う。
- 在宅勤務等のニーズが増えることを想定し、県外企業との連携により、遠隔による実習（デザイン、ホームページ制作等）を実施した。
- 生徒のICTスキルと意欲の向上をめざし、「やまぐちU18 デジタルアートコンテスト」へ参加した。（上のイラスト「瓦そば」は金賞を受賞）
- 特別支援学校ICT担当者を対象に行う「特別支援学校ICT活用推進協議会」において、株式会社沖ワークウェルのチームマネージャーを招聘し、「企業側が求める生徒のICT活用スキル」についての講義を実施した。

成果

- 関係企業との連携により、企業が在宅就労の際に生徒に求めるICTスキル等が明確となり、それを習得するために、関係企業が遠隔職場実習や実際の仕事の場面で活用しているプログラムや課題等を集約し、教育プログラムの暫定版を完成させた。
- 株式会社沖ワークウェルとの連携により、県内特別支援学校においてワークウェルコミュニケーター（バーチャルオフィスシステム）を活用し遠隔による実習を実施するなどICT関連企業とのつながりを構築することができた。生徒のICTを活用した仕事への関心が高まり、高等部卒業後の就労先としてICT関連企業や資格取得のための学校も視野に入れるようになった。
- 県外視察を行い、オンライン授業や在宅勤務で活用できる遠隔のツールやテレプレゼンスロボット等の活用方法を知ることができた。また、在宅勤務で使用する機器については個別具体であり、活用場面におけるポジショニングや機器の材質、姿勢の保持のための環境整備が重要であることが分かり、生徒の指導に生かすことができた。

課題と対応方策

- 教育プログラムの対象者を限定（準ずる課程の生徒）したため、個人でカスタマイズできるプログラム、障害種別に対応したプログラムの検討が必要
⇒ 研究協力校を増やし、障害種ごとに对应できるプログラムを検討
⇒ 活用しやすくなるような教材・動画の検討と作成
- 企業側（職場実習の受入先等）の障害者理解の促進や地域に向けての取組の発信
⇒ コミュニティ・スクールと連動させた取組

